

意見交換会報告書

開催日時	令和8年5月24日（日）午後3時 終了：午後4時30分
開催場所	松任コミュニティセンター 2階 研修室
対象団体	松任地区PTA関係者
参加人数	9人
出席議員	米山立子、有川康二郎、上田良治、池元勝、北嶋章光
役割分担	司会：池元 勝、開会・閉会挨拶：北嶋章光 意見交換 A班：池元・米山 B班：上田・有川
意見交換会テーマ「現役世代が無理なく参加できる地域コミュニティのカたち」 （意見1） 地域の子供会において、高学年の保護者だから役員を引き受けなければならない等の硬直化したルール、またくじ引きによる選出は大きな負担である。 （意見2） 6年生に進級する際、親が役員になりたくないという理由で、子供会を退会するケースがある。親の負担感が結果的に子供の地域活動への参加を奪っている。 （意見3） 市外から松任地区へ引っ越してきた人は、元々住んでいる人となじみにくい。 （意見4） 地域行事（コミュニティ）への参加は、地域団体に属することになり負担が多い。 （意見5） コミュニティは横のつながりも大事だが、縦のつながりも重要である。世代ごとで行うコミュニティの考え方をどのようにつないでいくかが重要。 （意見6） 行事には参加する人が多いが、その行事の準備となると参加者が少なくなる。 （意見7） 災害時の地域コミュニティの関係性の確立が重要。子供から大人まで、町内の人々が顔を合わすことが重要である。	

(意見 8)

消防団など「声をかけられれば、あるいは内容が分かれば参加を考える」という若い潜在層はいるが、募集チラシをみておらずアプローチが届いていない。

(意見 9)

小学校に入学してから初めて地域コミュニティとの接点ができるケースが多い。婚姻時や出産時など、より早い段階から地域と緩やかにつながる必要がある。

【意見交換会での担当班（議員）の回答】

例えば、避難訓練を行い、安否確認や炊き出し訓練を行う中で、町内の人が顔を合わせられればコミュニケーションが図れるのではないかな。

(意見 10)

他市では家庭教育学級や学習・研修活動を目的としたコミュニティ活動を行う際に使用するバスの借上げ費用に、助成制度等が設定されている。

(意見 11)

紙の回覧板は現役世代（不在がちな世帯）に情報が届きにくく、実質的に若年層を切り捨てる仕組みになっている。また、高齢層への配慮（紙との併用や移行期間の設置）は必要だが、データ軽量化などの技術的工夫を凝らし、双方向で迅速に連絡が取れるデジタル環境を早期に整備してほしい。

(意見 12)

85歳以上の高齢者が班長を務めていて、連絡が滞るケースもあり、現金集金や紙の配付といったアナログな事務負担を減らさないと次の担い手がいなくなる。

【意見交換会での担当班（議員）の回答】

地域ごとにシステムを導入するのは、予算的にも技術的にも難しいため、市全体として電子回覧板の導入アンケートの実施や、スマート化に成功している地域組織のルールや規約改正のロールモデルを波及させる。現役世代が「言っても無駄」とあきらめずに声をあげられる双方向のまちづくりを目指す。地域の伝統や守りたいものを残すためにも、単一の町内会で抱え込まず、複数の地区コミュニティが連携して高齢化に対応していく体制づくりを模索する。

(意見 13)

共働き世帯が増え、放課後に学童クラブから習い事への送迎に追われる親が多い。地域の集会所やコミュニティセンターで習字やそろばんなどの習い事が復活すると助かる。地域に眠っているスキルを持つ人材を活用し、適切な報酬（受益者負担を含む）を支払うことにより「プロ意識」を持って教えてもらえる仕組みが良い。

(意見 14) 地域によって集会所の利用ルール（管区外の講師の起用が良いのか等）が異なり、可視化されていないため把握しづらい。